

学校教育目標	「つなぐ」=『自らの成長を自覚し、適切に行動できる 岡津っ子』 ①教材と児童、児童と児童、児童の過去・現在・未来 ②学校、家庭、地域 「知」一人ひとりが学ぶ楽しさと創り出す喜びを感じて自分の学びを大切に、自主的に学び続ける子を育てます。 「徳」他者を思いやり、規律を守って集団行動をしながら互いのよさを認め合う子を育てます。 「体」心と体の健康を大切に、自分や人の生命を大切にすることを育てます。 「公」地域の人とのコミュニケーションを通して地域社会の活動を大切にしようとする子を育てます。 「開」様々な人とのコミュニケーションを通して自然や社会に目を向ける子を育てます。			
	創立 104 周年	学校長 下畝 直人	副校長 眞壁 弘明	2 学期制 一般学級: 16 個別支援学級: 6
学校概要	児童生徒数: 456 人 主な関係校: 岡津中学校 上矢部小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	岡津中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自分づくりに関する力〉 〈持続可能な社会の創造に貢献する力〉	岡津中学校 岡津小学校 上矢部小学校	主体的に自分の想いを表現していく子ども 教職員の理解のもと、一人ひとりの子どもの心の居場所と役割のある学級づくりに取り組んでいます。また、小中交流を通して、子どもたちが安心して、期待感をもって中学校に進学できるようにします。

中期取組目標	○“自らの成長を自覚し、適切に行動できる岡津っ子”の実現を目指して、子どもの思いを大切に保護者や地域と連携しながら、『一人ひとりが大切にされ、主体的に考え行動できる児童の育成』を推進していく。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、ICT活用などの不断の授業改善を行うことで学力向上を図っていく。 ・すべての児童が安心して登校し、学校に居場所がある実感をもてるような児童指導を行う。 ・心と体の健康に興味をもち、自ら意識して生活習慣・運動習慣・学習習慣を身に付けることができるようにする。 ・社会性・道徳性を6か年の中で、段階的に身に付けることができるようにする。 ・キャリア教育の視点をもち、子どもたちが自分自身のなりたい姿を具体的にイメージすることができるようにする。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きて働く知	①単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。ICTを効果的に活用し、本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが自分の学びを判断して選択しながら学習を進められるようにする。② さまざまな社会の出来事を自分事としてとらえ、様々な情報をいろいろな角度から精査したり、知識を相互に関連付けたりして、物事を深く考える習慣を身につけ、学びを人生や社会とつなげ、豊かな発想をはたかせることができるようにする。
徳 豊かな心	①社会のルールを進んで守ろうとする意識をもち、他者よりよく生きていくことができるよう、相手の立場や気持ちを思いやって行動できる優しさを育む。②ペア学年(1.6年、2.5年、3.4年)での仲良し活動を年間を通して行い、異学年交流を通して思いやりの心情を育てる。③自分の思いを書いたり、話したりする活動の中で自分自身を見つめたり、なりたい自分をイメージしたりすることができるようにする。
体 健やかな体	①子ども一人ひとりが健康診断や体力・運動能力調査の分析に基づいて、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培う。家庭と連携し、特に運動、食育、歯科保健教育に力を入れる。②「地産地消」に積極的に取り組み、社会科や総合の学習などで地域の農家の方の協力を得て野菜作りを行う。③子ども主体で計画された運動集会や運動週間を定期的に行うなど、楽しく体を動かす機会を設定し、日常的に運動に取り組む態度を養う。
公開 公共心と社会参画	①子どもたち自らが積極的に地域と繋がることを大切にして、地域で体験的に学ぶ機会を設け、他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら一人ひとりが自己有用感を高めるようにする。②「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。③岡津の地域を愛し、地域のために貢献しようとする人材を育成する。
いじめへの対応	①子ども会議等の子どもたちが話し合う機会を年間計画に設定し、子ども自身が考える未然防止への取組を強化する。②月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、毎日の健康観察や年3回の児童アンケート等により些細な変化を見逃さない体制づくりを行う。③組織的に対応するため、日頃より報・連・相を徹底し、速やかに情報共有し、担任が抱え込まないような指導体制を構築する。
人材育成・組織運営(働き方)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが中心となって月1回の活動を継続して行う。②ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、組織的な働き方改革につなげる。③会議を精選し、効率的に話し合いを行う。ミラ임을使って連絡事項等はもれや落ちがないようにしていく。
特別支援教育	①特別支援教室の環境整備を行い、ユニバーサルデザインについて理解し、学びや環境のユニバーサルデザイン化を推進する。②障害等を理由に、授業に参加できない状況にないか、常に教育活動を見直し、子どもの思いに寄り添いながら誰一人取り残すことなく、授業に参加できるように取り組む。ICTの効果的な活用について全教職員で検討し、共有する。③SSWや学校カウンセラーと連携して、子どもの思いや保護者の困り感に寄り添い、よりよい学校生活が送れるように支えていく。
児童生徒指導	①「岡津っ子スタンダード」に子どもの声を取り入れ、随時見直ししながら、基本的な生活習慣をしっかりと身に付けることができるようにする。②職員会議において児童理解の内容を扱うことを定例化し、児童の状況を共通理解する。③「Y-Pアセスメント」を活用し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を実践する。④不登校児童の思いに寄り添って学習の支援の在り方を探り、ICTも活用しながら学びが継続できるようにする。
ICT推進	①GIGAスクール構想を推進し、授業の中で効果的にICTの活用を図っていく。②タブレット端末の管理を徹底し、子どもの思いを取り入れながら使用の約束を決め、児童が正しく使用できるよう指導していく。③ICTの活用について積極的に職員の研修を行う。
キャリア教育	①長いスパンで「自分づくり教育」を行っていく。子どもの声を活動に生かしながら、幼保小連携や小中連携でも意識して取り組んでいく。②子どもたち一人ひとりが自分に自信をもち、社会や集団の中で自分の役割を意識し、岡津の地域や横浜に貢献していくことで、夢や希望、目標をもてる子どもを育成する。
担当	総務部